

私と航空部

薩 埴 章

(1) 入部の経緯

私が岩倉の高商で、ESSの英語スピーチや、英語劇に熱中していた時、クラスの友人岡山巖君(18年法卒)は、既に二等操縦士の免許をとり、学生航空連盟の訪満飛行に参加し、航空時代の主役として活躍していた。当時の学生は、いづれ軍隊に行かなければならず、従って当時、馬術部、自動車部、射撃部と共に航空部は時代の花形であった。

昭和16年4月大学法学部に岡山君と共に入学した私は、グライダーに乗ることに決め、同君から市川文男君(18年経卒)を紹介され航空部に入った。

(2) 部の生活

私の玉水滑空場でのグライダー訓練は、初心者組で、私以外は皆予科、専門部、高商と若い人ばかりだった。

服装は、戦闘帽、教練服、地下足袋姿で、炎天下の本津川河川敷を、プライマリーの、ゴム索引きに終始した。

玉水での合宿訓練の他、盾津飛行場での中・上級者訓練の見学や、お手伝等の思い出が残っている。

滑空技術の方は、入部の動機が、「軍服の右胸に翼のマークの付く航空兵」に憧れての、遅まきながらの出発だったので、若い人が、どんどん上達するのに比べ、遅々として進まなかった。

従って、翌17年4月(2回生)以降になると、訓練に余り身が入らなくなっていた。

その後、18年4月3回生となった時、卒業が半年繰り上り、同年9月卒業の予定となり、この年の春、本籍地の上京区役所で、延期されていた徴兵検査を受けることとなった。

結果は、「第2乙種合格、飛行兵」で予備役編

入となり、昭和18年9月大学を卒業し、帝国銀行(当時最大の普通銀行)に入行し、1年間が過ぎ、翌19年4月に召集令状が来て鈴鹿の陸軍航空気象聯隊に入隊、気象通信兵としての教育を受ける事になった。

此处で又、市川文男君と、同じ班で起居を共にし、終戦迄同じ道を歩みつづけることになった。

(3) その後の私

軍隊生活は、1年余りで終戦となり、復員した私は、銀行に戻り、戦後の経済復興から始まり、高度成長時代を経て、昭和60年満65歳を迎える迄、唯一途に働いて来た。

その間、時代の変遷と共に、私の勤めた銀行は、帝国銀行から、第一銀行、そして現在の第一勧業銀行と変っていった。

私は、今71歳となり、隠居生活を送っているが、考えて見ると、日本は、嘗て軍事大国だったのが、今では世界の経済大国にまで成長し、富は得たが、心を失っていたのである。

今日本は、政治・経済・教育の分野で、心が求められている。

政治倫理、経済倫理、そして教育にも心を、即ち、智・徳・体、この3育が、一体となって初めて、円満な人格が形成されるのである。

複雑な現社会にあつて、今や徳育は、特に注目される時機に来ていると信ずる処である。

(昭和18年卒)

ちょっと近況ご報告

小 西 市 郎

私共の方は、秋の取り入れ前の時期です。昨日は台風14号が接近、今朝は遠ざかりホッとしたところ。日頃はご無沙汰ばかりで誠に申し訳なく思っています。

私事ですが、一寸近況などご報告いたします。

去る6月22日、京都南座北「万広」で木枝ゼミが集まりました。航空部OB大岡秀生君、清水正彦君は欠席でした。

私は昭和62年9月、31年勤めたヤンマーを希望退職しました。今は百姓をしながら千代田産業という会社に勤めています。仕事は自動化工業ミシンの開発です。ミシンのことは分かりませんが、マイコン制御の自動化が勉強です。

ヤンマーを退職してからいろんな役を言い付けられました。

農協理事・町土地改良理事・集落営農ビジョンリーダー・村の土地改良副組合長・氏神(神社)の世話役。

以上、引受けるのが悪いと思いますがボランティア精神で頑張っています。(昭和31年卒)

小西夫人
小西市郎

木枝先生



女子部員第2号

上 田 伊津子

女子部員第2号やなんて、知らなかったわ！
50有余年の歴史のある航空部の第2号やなんて、ショック。なんて古い人やったのかと思われて。でも私は入部の日のことをついこの間のことのよう、ありありと覚えているのです。それがその、年を取った証拠と言われそうですね。

4月、あの烏丸の門から入ったコンコースの両側に、ずらっと部の勧誘隊が並んでいて、道いっぱい、わくわくするような輝きの中でした。私はそれまで馬に乗っていたので、ぜひ乗馬部に入ろうと思って、馬が1頭来ていました。左手、北側の少し奥の方に。その二つ手前が航空部だったのです。小さなグライダーが1機、キラキラしていました。私はちょっとだけのぞいて行こうと思って……。そんな風にして私の入部は決ってしまいました。

木津の川原で1度も引っぱらずにパチンコに乗って、だって女子部員1人ですもの。伊勢自衛隊1日体験入隊とか、コンパの時、どうして男の子って、あんな大声で騒ぐのかとか、記念撮影の時、「せえーの」「ワー」でシャッターを切った瞬間のこととか、グライダー(馬もだけれど)から降りて、帰り道、なんて車は自由に言うことを聞いてくれるのかとか、せいせいしたことくらいしか残っていない。実にそんな部員だったけれど、ずうっと、送ってくれる後輩達の便りに、そう主人や息子達の大学の部の便りにまじって、負けじと元気にやって来てくれる同志社大学航空部の便りに、人には話したくないような部員だったことは棚に上げ、だんだん航空部員だったことの自覚が出来ちゃって(フフフ)喜び、自慢のたねにふくらんできているのです。大きな、大きなたねに。子育てで忙しかった時には、あの特別まづい(ごめんな

初 体 験

川 上 哲 也

さい)字でやってくる合宿の便りに慰ぐさめられたり、試合の結果に心をうごかされたり、新しい機体のこと等、しっかりと私の長い生活のなかに入っていることを思わされます。たった4年の現役生活より長い長いO・G生活なのですからこう言うものなののでしょうか。感謝に思っています。でもこの頃は、お便りを戴く度に、こんな私にまでにと、とても気の毒に思い、辞退しようかしらと思ったり致します。これはやっぱり年を取って気が弱くなった証拠ですね。でも、もっと年を重ねたら今よりも、もっともとお便りが待ち遠しくなるかもしれないから……と。

先年の50周年のお祝の時、大先輩のお話を伺うことが出来ました。飛行機に乗られた先輩方はその時代直接航空隊の飛行隊員として召集を受けられ、私達の為に、日本の為に大勢の方々が散っていかれたこと、そしてそこにお集りの先輩方はそういう中を生きてこられたことを知り「そうだったのだなあ」と実に思わされ、私がそれまでそのことを実感していなかったことに自分でもびっくりで、反省の心いっぱいになったことです。50有余年歴史のある部に属しているこの深さを喜び、また大切に、一人ひとりが負うべきものがあると思いました。

もう一つ「同志社」が私にはのこりました。6年前、ほんとうに何年ぶりかで実が結び、クリスマスになることが出来ました。感謝をしています。皆様の御健康、航空部の前途をお祈り申し上げます。

(昭和36年卒)

岐阜県飛騨の山中、回りを高い山に囲まれた、まるですり鉢の底のような、小さな町。空を見ようとすれば60度近い角度で見上げなければならない。そんなところで生まれ育ったせいか、「碧い空」にたいする想いは、物心のついたころからもっていたように思われる。

長ずるに連れ、この「底に居る」という圧迫感からかどうか、見晴らしの効く山の頂へ上がることが好きだった(単純に高いところが好きだけだったかも……)。

ましてや、めったに飛来しない飛行機の爆音などがした日には、何を差し置いても、狭い空を見上げ機影を探し求めたが、たいがいは爆音のみで、ときには豆粒のような機影が遙上空陽暉に輝きながら飛んでいくのが見られるだけだった。

この「空」への憧れは、他の大多数の例に漏れず、「飛びたい」から「飛行機に乗ってみたい」になり、「飛行機を操縦したい……」となり、結果「飛行機乗りになりたい……」という図式になるまでにはあまり時間がかからなかった。

しかし、当時の小学生のガキにとって、今日ほど情報はなく、一体何をどうしてどうすれば良いのか考えもつかないことだった。

田舎の町の本屋に航空関係の本、雑誌など置いてあるはずもなく、航空雑誌「航空ファン」というものがあることを知ったのは、中学生のころだったと記憶している。

ハイティーンになるにつれ、ガキのころからずっともち続けている「思い」とは別な人生が形づけられ始め、その「思い」を引きずり、多少なりとも近ずかんとして、抵抗を試みた結果、思い知らされたのは、人生思いどうりには行かないもんや、！ というごく当たり前の結論だった(手前の

能力のことも考えんでよくやったもんだ)。

「よ～し！ そんならグライダーもつとる学校に入ったるわい」

誠に往生際の悪いことで……。

当然のことながら、押しかけ入部。俺が1番や！ 受付の先輩曰く「お前は2番目じゃ……」、どんな奴や？ 1番乗りは「樺島……」とか、と言うわけで、やっと「飛翔」の玄関口にたどりつきました。

JA0167・霧ヶ峰式やまどり 2A 型セカンダリーグライダー

私を、生まれて初めて地上から大空高くに引っ張りあげてくれた彼女の名前である。そのときの体験は、26年余りたった今日でも鮮明な記憶として、「翔ぶ」ことを語るたびに蘇って来るほどのものでした。「彼女」との初対面の印象は、あの「パチンコ」しかお目にかかったことがなかった私にとって、新鮮な驚きでした。「これがグライダーというもんか！」

場所も、八尾飛行場。「彼女」との初対面の舞台設定にも申し分ないものだった。「パチンコ」時代の河原人足のような訓練と異なり、ずっとカッコよく、これぞグライダー訓練と満足したものでした(しかし、その後の訓練のキツかったこと……ご同輩ご記憶のとうり)。今にして思えば「彼女」は滑空機というよりも滑空器と呼んだほうがよく似合う、まことに素朴な無骨な機体だったようです。

プライマリーグライダーで「跳ぶ」ことを知り。
セカンダリーグライダーで「飛ぶ」ことを手ほどきから、優しく？ 教えてもらい。

ソアラーで「飛翔」へのチャレンジに苦勞し……。

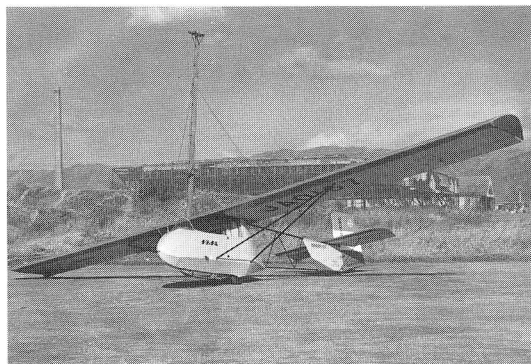
私にとって、「彼女」との出会いとお付き合いをしたお陰で、いまだに、下手の横好きながら、グライダーの世界に引っ掛かっている不幸(?)を背負っていますが、そういう人は私ばかりではごさいますまい。

もし、いま「彼女」と再会したらこう言われるだろう「相変らず下手なテクニックね……」と。

「彼女」JA0167号機は、私の青春時代の大きな思い出として、思い入れの多い機体となっています。

(昭和40年卒)

霧ヶ峰式やまどり 2A 型
JA0167 ナショナル号



新潟市便り

田 中 信

私に与えられた標題が「新潟市便り」とのことですが、きっと、京都から見るとわが新潟は昔から、越の国と呼ばれ、遠い僻地でありましたから強い関心を持って下さったのか知らん、などとつぶやきながら固めの文章を書き始めています。

ばーと 1 少しまじめな便り

この4月に、新潟市から30km 程北に位置する新発田市(しばたし)に敬和学園大学が誕生しました。

初代学長に同志社大学文学部名誉教授北垣宗治先生がご就任下さいました。

開学式には同志社から松山総長がお越しになられ、ご挨拶をいただきました。

両先生のご挨拶はキリスト教主義の教育理念に溢れたすばらしいお話で、格調が高く、久々に一筋の光明が、この暗い、どんよりとした越の国の空と私の心に差した感がいたしました。

敬和学園大学の設立を推進した敬和学園高校は、日本基督教団がキリスト教主義に基づく高校を新潟市に設立することになり、初代校長となられた故太田俊雄先生がアメリカからお越しになられた2代目校長モス先生と力を合わせ、昭和42年に設立されました。

この度、同志社大学から北垣学長にお越しいただいたことは、高校設立に多大なご苦勞をされた故太田俊雄先生とキリスト教の布教のために新潟市に教会を設置することを念じておられた新島襄両先生の念願が適われたように思え、感銘を受けました。

そして、年の3分の1は雪と氷に閉ざされるるかな越の国に、暖かいご支援を下された同志社に深く感謝いたしました。

余談ですが、太田俊雄先生は大阪府立八尾中学(旧制)で教鞭をとっておられたことがあり、わが航空部とも浅からぬ因縁のお方であります。

ばーと 2 私の近況

私は、猿も木から落ちると申しますが、雪国の人間には珍しいことですが、昭和63年2月に自宅前の凍った路面で転倒し、右大腿骨の上部を骨折しました。オォッ、恥ずかしい。

38日間も寝返りもできない寝たきりの生活となり、114日の入院生活を送りました(この結果、以後、まったく頭が上がりなくなっただのは、首の筋肉が劣化したせいです。医師のアドバイスで、退院後の治療のために、ダイヤのついた高価なペンダントを隣人の首に下げることになったのですが、私の首の筋肉は依然として、回復しておりません)。

漸く、この7月22日から8月3日まで、整形外科の病院に入院し、その際に取り付けた金具を抜釘する手術を受け、175gの減量に成功し、今は、心身共に爽快です。

骨折した原因は、昭和52年、53年に草野球で、右、左のアキレス腱を断裂しましたが、足首の動きが鈍いために転倒した際に、敏捷に身を立て直せなかったためのようです。

現役の皆様も退役後に私のようにならないよう、車に乗ってばかりいて、歩かないでいたり、太って来ますところなりやすいのでご注意ください。

ちなみに、私の大学卒業当時の体重は確か、56Kgでした(身長は172cmで大変スマートだったとのことですが、我が家の下宿人は信じませんが)、骨折時は71Kgでした。

今は67Kgですが2 Kgほど太めですので、減量に気を配っています。

サラリーマンから アクエリアスへ？

岸 田 長 三

ぱーと3 私の大学生活を思い出すと

恥ずかしながら、ほとんど勉強をせず、合宿と合宿費を稼ぐための修学旅行向けの旅館の泊込みのアルバイトに明け暮れていました。

下宿人の主人に、下宿で生活せず、西に東に走り回っている私を見て、「あんたはどんな商売をやっても、チャンと生きていけるよ。」と褒められたのは奇異なことでした。

2年生の時に、5週間ほど学校を休み、高松空港で合宿したときは、代返をしてくれる友人がいてくれて、大変助かりました。

どういう訳か分かりませんが、在学中はフランス語の試験以外は1回も無かったことですが、社会人になってから、試験で白紙の答案を前にして、脂汗をだしてうなっている夢を何回か見て、目が醒めることがありましたが、最近は見なくなりました。

今年で、卒業以来25年経ちましたので、京の都で、久しぶりに、同期の桜と会って昔の面影を思い出して見たいものです。

では、皆様、お元気で。

(昭和41年卒)

ある人が言った。「2千数百年続いた宗教の世紀、魚座(ピッソス)の時代は、30年程前に終わり、今は破壊と創造の水瓶座(アクエリアス)の時代に入っている。新たな飛躍した創造の為に、人類は進化のステップを踏む必要があり、今は古い価値観が破壊される為の大変革の時代。今後、本格的な大破壊が必然的に進むのである。」「えっ？ふーん！なるほど。確かにそうだとしたら、今の時代の予兆を孕んだ大混乱の原因と必然性が、何となく判る様な気がするなー」。

ということで、色々検討した結果、中途半端な企業に居る事、関東に住んで居る事がやばそうな雰囲気である。丁度、その頃離宮(いわゆる前厄年)に入っており、人と別れたり会社を辞めたりし易い年であった。偶然(必然?)社内では人と衝突しそうな事が持ち上がっていた。よし、きめた！この勢いを利用して会社をやめよう！関東から逃げ出そう！うまーく喧嘩して、途中だった仕事も軌道に乗せて、はいさようなら。「君達、俺が言っていた事の意味が、近い将来判る事になるだろう」と、餞の言葉を残して、友人達とも御機嫌よう。

厭味を言われながらも実家に転がり込んでさて、と今後の生活をつらつら考えるに、残りの後半生、してみたいことが5つ6つある。企業は今、生き残る為に、新しい事業をどんどん拡大しており、若くて生きの良い社長が派手に募集しているのへ提案書を送ってみた。ところがなんと、年齢制限に引掛かって門前払い。この一、と怒ってみても仕方が無い。しゃーない、此の際自分でやったるか！

難読地名

「朝日新聞の用語の手引」によると、新潟県には新発田市の他にも、小千谷市、五泉市、中頸城郡、鹿瀬町、守門村、能生町、羽茂町など難かしい読み方の地名が数多くある。



マンションを売った金しか手元には無いので、結局、京都でヨーロッパの高級食器(ウェッジウッドとか)を直輸入して直売する店を開く事にした。セールスポイントは、「ヨーロッパと直結した店」。アピールするでしょう？

退社1年後、京都に移り、更に1年を準備にあてた。この間、前回焦って色々失敗した厄年を、勉強と情報収集にあて慎重に進めた為か、偶然、内助の功で出来た良い友達が、又、ユニークなデザイナーを紹介してくれたので、店のデザイン、店名から包装迄ほとんど任せる事にした(勿論、こちらの希望はあるのだけれど)。「アクエリウス、という店名が良いと思うのですが？」こちらから言ったのではない。デザイナーから言って来たのである。驚倒仰天!! こういうのを「出会い」と言うのでしょうかねー。

安く借りれた20坪の店を全面的にやり直し、1990年8月22日、東大路仁王門交差点に、やっとオープン(金、無くなったなあー)。なかなかシックで、しかも良く目立つ店に仕上がった様である。なにより、一番欲しかったアイデンティティーがある。やあ、出来た出来た、ばんざーい。

えっ、肝心の客足はどうかって？ それは貴方、まーぼちぼちでんなー。うちは安うおまっせー。なにしろ店の奥はヨーロッパにつながってますからねー。おまけに好きなカップでフォートナムメイスンのティーやコーヒーものめますねん。まー2～3年先を見とおくれやす。ほな今後どうぞごひいきに。(昭和46年卒)

入社以来のグライダー

山田 正信

私は昭和49年に卒業しました。同期にはいまだに後輩をイジメている土田君とか、なぜか彼からの電話が怖い(なにしろOB会費が滞納気味なもので……)速見君がいて、卒業以来、実質的にはほとんど航空部と関係がなくなっていた私は、時々かかってくる速見君からの電話と、だいたいその時にまとまる大阪近辺在住の同期生との会食で細々と航空部とつながっていたようです。入社以来ずっと津の工場におりましたが、合宿が行われるようになった木曽川にも行くことはありませんでした。大学時代のグライダーというものが自分の中で完全に過去のものとなっていたようです。

そんな私に一昨年の冬、向井先輩から「東海支部として合宿の激励に行こう」というお誘いがあり同時開催のゴルフコンペ付忘年会にもつられて、同じく津在住の同期の中村君と卒業以来初めて木曽川の合宿に行きました。その時の十数年ぶりのグライダー体験はほんとうに『スバラシイ!』の一言でした。滑空場が広々としていてスバラシイ!。グライダーの飛翔している姿がスバラシイ!。合宿している皆さんがとても生々していてスバラシイ!。グライダーで飛ぶ(乗せてもらっているだけです)ことがスバラシイ!……。この時私にとってグライダーは決して過ぎ去った過去のものではありませんでした。

このような感動を私にわけてくださった先輩、OB会、そして我が同志社航空部に乾杯!。

(昭和49年卒)

あれから16年

杉 本 政 博

大学を卒業してから早いものでもう16年が経過してしまいました。私の年も40の声をきいて髪の毛には、白いものが混じっております。昭和50年に東京トヨペットに入社して、セールスの勉強を2年やりまして、静岡に帰って現在に至る14年間、あっという間のような気がします。おかげさまで病気もせず、無事故無違反の順調な毎日でした。30歳で結婚し3人の男の子に恵まれ、ますます意気盛んな日々を過ごしております。2年前に代表者を引き継ぎまして、22名の従業員ともども、自動車の整備の仕事を通じ社会のために貢献していると思っております。今年の11月には、初めての試みとして、社員旅行にサイパンを予定しております。

同期の落合俊英君は、今も北海道の空を満喫しているそうです。羨ましい限りです。私のほうは、もっぱらゴルフやテニスを楽しんでおりまして、空の散歩はなかなか許されないのが残念です。先日の8月11日に富士ロイヤルというゴルフ場で、インコース最終ロングで2オンに成功して、みごとイーグルを射止め、ゴルフの醍醐味を味わいました。ちなみにスコアは41・43の84回でした。

最後に皆様が御健康であることをお祈りいたしまして、御無沙汰のお詫びとさせていただきます。

(昭和50年卒)

ゼロ 0からの開発

中 村 明 善

同期の皆さん、先輩、後輩の皆さんお元気でしょうか。

さて、私の勤めている会社はセイコーエプソン(株)といって、電子機器・時計等を主な業種としており、その中で私はノートパソコンの回路設計を担当しています。

そこで、激動するコンピュータ業界の内情を「0からの開発」と題して話してみたいと思います。

私が入社した1985年というのは、プラザ合意があった年でありそこから急激に円高が進み輸出型企業であった当社はかなりの打撃を受けました。そこで叫ばれたのが「内需拡大」です。当社ではまず私が最初に配属された「機器課」というのができ、私達チームは初めてパーソナルワープロなるものを開発しろと命じられました。最初の「0からの開発」です。当時新入社員であった私はチップが4つ程乗った小さな基板を設計しただけでしたが、新聞に製品発表がのったときには非常に感激したのを覚えています。これが「ワードバンク」です。電子部品の目を見張るほどの進歩と同時に私はそれから3年間ワープロを設計し続けました。さて、その間当社では別の「内需拡大策」が取られました。知る人ぞ知る NEC 互換機の「PC286」です。苦勞して生まれた「PC286」の反響は非常に大きいものでした。しかし、その陰で徐々に「ワードバンク」はかつての勢いをなくしていきました。ちょうどそんな頃、当時の副事業部長から呼ばれ「中村君、3日後に課を移りなさい」と言われました。これが「PC286 NOTE シリーズ」の始まりでした。第2の「0からの開発」です。

当時、パソコンというのはデスクトップと百科

乱気流三人娘 II

近 藤 信 子
鈴 木 美 穂
山 本 真 子

辞典より一回り大きいラップトップ型というのが主流でした。それをA4ファイルサイズで35mmの中に入れろというのですから大変です。そんなこんなで出た「PC286 NOTE」は、その後出た東芝の「DYNABOOK」の驚異的なスペックに負けて惨敗しましたが、我々チームにとっては思い出深い機種になりました。そして現在、その苦労は「PC386 NOTEW」となって花開いております。

最後に、興味のある方は、今年限りで引退するF1の中島選手を応援して下さい。又、冬季オリンピックの際にはぜひ長野県へ足を延ばして下さいようお願いします。

(昭和60年卒)

× × × × × × ×
× × × × × × ×

乱気流三人娘アフリカに行く
“どちらが現地の人?”

山 本 近 藤 鈴 木



ごめん、ごめん。待ったー。実は、翔友の原稿依頼がきたんやけど。

エーッ。原稿? 何書こうか。

前書いてから3年たったんやなー。あの頃は初々しかったなあ。

何言うてんの。今も初々しいわ。昨日なんか20歳に間違えられたんやから。

聞くだけ聞いとこ。

題は「乱気流三人娘パートツー」やてー!

また、お笑いページになるんかなあ。

私ら誤解されてるなあ。会社でもアフリカ行つてから十分へんな奴って思われてる。

そしたら、アフリカ紀行でも書こうか。

よかったわー。アフリカ。しまうま、ぞう、キリン、ヌー、ペリカン……。いっぱいいたね。

ペリカン飛ぶの初めて見た。

ヌーとかしまうまとかくさるほどいたなあ。

フラミンゴもいっぱいいて湖がピンク色してたね。でも臭かった。

気球も乗ったし……。

操縦士の人。バリバリカッコよかったし。

誰? 写真撮る時しっかり横に陣どつたの。

そう言えば、三人で団体行動を乱してたなあ。

集合時間には遅れるし。

誰が原因とは言わへんけど。

ほんまや。誰やったっけ? ……。

3年たったらまた行こうね。落ちつく人もなさそうやし。

この調子やったら、落ちつこうにも落ちつけへんわ。

誰のせいや、誰?

乱気流三人娘の1日はとっても充実しています。今度はどこへ吹くのやら。(昭和63年卒)

SE としての近況

大 塚 晋 司

まだ大学生の頃を昨日のことのよう思い出せるのですが、大学生生活とともに京都を離れてもう3年になります。大学の時はパソコンのキーボードすら触ったことがなかったのに、今ではいろいろなユーザー相手にシステム開発を行っております。

SE といっても会社にもってプログラムばかり組んでいるイメージがありますが(そんな人もいますが)、私の所属する課は地元ユーザーのシステム開発がメイン業務であり、あまり会社にもめることもなく、毎日、県下各ユーザー先へ出向いています。これを読んでいる方の職場にも必ずといっていいほどコンピュータがあると思います。一般的な会計業務や給与計算といったものはどこでも同じような仕組みですが、例えばロケットの制御などは地球の重力計算等の専門的な知識がなければ作れないものです。このようなシステムを作り上げる SE には高度な業務の知識が必要というわけです。これは極端な例ですが、ユーザーのシステムを構築するにはユーザーと同等な知識が求められます。よく思うのですが、この仕事を続けていると SE を辞めてもすぐに各産業界でエキスパートとして働いていけるのではと。

私は流通業担当ということで、これまでスーパー・百貨店の POS システムや補充発注システムを担当し、現在ではホテルのシステム構築を行っています。ホテルシステムを担当し始めた頃は専門用語に泣かされました。プレアサイン、レジストレーション、チッツ、スッキッパー、チェンジスリップ等々、これらの言葉が打合せの時に飛び交い、目を丸くしたのを覚えています。ホテル業界誌を読んだり、実際にホテルマンと接しているうちに今ではホテル業界にも詳しくなり、あち

らこちらのホテルにお客さんの紹介で安く泊まれるメリットを甘受出来るほどにもなりました。

現在のプロジェクトも来月が本番で(この原稿が出る頃には終わってるかな)、今が忙しさの絶頂です。何を隠そうこの原稿も日曜日の夜9時に会社で打っている状況で、平日は10時30分が定時退社時刻のようです。田舎ですと夜10時を過ぎて開いている店は飲み屋ぐらいいなもので、繁華街が歩いて5分という環境もありますが毎日御飯がてら飲みに行っております。たまに7時ぐらいに帰れる時は何だか家に帰るのがもったいない様な感覚にとらわれ、やはり飲みに行くという状態です。次々に倒れては入院していく人々を見ながら、この業界35歳定年説もまんざら嘘じゃないなとも思う今日この頃です。

航空部に在籍している間の思い出は、飛んだことより、陸送につきますね。私の2つ下の代の人には、私がトレーラを運転している姿は見たことがあっても飛んでいる姿を覚えている人は少ないでしょう。一人で高速バスや電車に乗りトレーラを取りに行ったり、運転していった先での宿舎準備で忙しいランウェイを後に駅やバス停まで歩いて帰ったことや皆でわいわい陸送に行ったことはいいい思い出です。

九州の田舎に引っ込んでいますが、出張で京都、大阪方面にはちょくちょく行っております。たまには遊びに伺うかも知れませんがその時はよろしく。

(平成元年卒)

航空部の思い出

松 田 剛

私の学生生活の大部分を占めた航空部生活を、今思い出してみますと……。

1年生。慣れない土地で知り合いもなく、授業以外は田辺の格納庫と下宿を往復する毎日で、格納庫の doorman としてトラックの貸し出しや立命の耐検の手伝いをしたり、原付で門衛所やコンビニ、近鉄三山木駅等へと航空部の足替わりを勤めたりしました。合宿の前日には下宿を一部の部員に開放して、偉大な先輩方の武勇伝に花を咲かせたものでした。

また、森氏のブルーバード SSS にもよく乗せて頂き、右も左も分からぬままにさまざまな名所へと夜昼もかまわず連れて行ってもらいましたし、多くの先輩方に何度となく夕食を御馳走して頂きました(御恩は一生忘れませんワン、ワン)。そういえば、万博公園や大阪空港の R/W エンドに遊びに行ったりもしました。この頃の私にとっては、航空部は楽しいサークルのようなものでした。

2年生。256の機体係につき、副将となつてからは、リトリブや機材車の認定も得て合宿数も増し、部内では新人教育も受け持って航空部本来の道へと引き込まれて行きました。夏頃から教証メンバーにも加わり、9月には初ソロ。11月は同立戦Ⅱ部と東海関西新人戦。12月にはKa-6Eにも乗って2月頃にはソアリングの真似事もするようになりました。自分の中で一番加速にのつた時期であつたと思います。妻沼でクルーとして全国大会も間のあたりにしました。

3年生。主将となり、トラックやウインチマンの認定も得て忙しくなつた反面、学科試験でつま

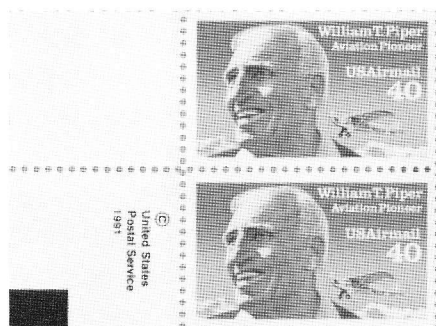
づいて自家用技能証明が取れず、ブレーキの掛かつた時期でした。修理を終えた256を受け取りに関宿まで1,000kmをトラックで走破したり、トラックのエンジンを凍結破損させてしまつたりで東奔西走。また合宿では2号ウインチの不具合による索切れ続出で一時ウインチマンの認定差し押さえ。3月の全国大会は自家用がなく参加できず、南山との混成チームを応援する事に。

4年生。部内の仕事は次世代に引き継いだ代わりに卒業研究で多忙となり、夏には自家用と大学院の受験で四苦八苦でした。そんな中でも東海関西大会では7年ぶりのV。同立戦、全国大会では実を結ばせませんでした、四年間の成果を試す事ができました。

まだまだ書ききれない出来事や思い出が沢山ありますが、これらはやがて集まって大きな上昇気流となり私を空高く運んでくれるに違いありません。4年間で知り合えた皆さんと共に。

(平成2年卒)

パイパーの思い出



写るかな？

山 本 康

皆さんはカメラをお持ちでしょうか？ 今や1軒に1台どころか1人1台はあろうかというコンパクトカメラの生産に携わる1人となりました。

私の仕事はレンズ・シャッターカメラ(コンパクトカメラ)、通称バカ・チョンカメラの光学の生産設計をしています。

会社というのは非情なもので、機械科出身の私をナンのためらいもなく光学の世界に放り込み、日々課長に、先輩におこられる生活を送っており、不条理を感じながらも学生時代のクラブを思い起こせば、“まっいいか”と思ってしまうから不思議なものです。通勤時間も自転車で10分弱という恵まれた所ですが(私は愛知県の豊川工場におります)、名古屋まで車で1時間強、三河弁と赤だしの洪水の中で泉州弁を寮で友人と復習する日々です。

ところでグライダーに適したカメラとはどんなものでしょうか。フラッシュはいらない。FA(自動焦点)、ズームもいらない。タイマーもいらない。ひょっとして「F社写○ンです」でしょうか。いつかは課長の目を盗んで、こっそりとそんなカメラを作ってみたいと思う今日このごろです。

(平成3年卒)

43同期会

三 浦 和 子
竹 鼻 信 昭

5月4日～5日、枚方市の「サンパレスひらかた」で一泊、総勢18人。——阿部、赤見、木村、北村、鬼頭、竹鼻、白石、三浦(和)、山田(冽)、森本の10人——。

前回同様、石元先輩がさし入れを持って参加され(前回同様、幹事は先輩からガッポリと多額の会費をフンだくり)、九州からキャンピングカーで初参加の阿部氏一家、それに2年で退部した森本さんも入れて一同楽しく過しました。

3年前は皆さん子供がまだ小さくて、とてもにぎやかでしたが、そろそろ親には付き合ってくれなくなり、ホッとするやら淋しいやら……。

ちなみに前回は10人の子供さんが今回は5人でした。

白石女史などは「皆としゃべっていると、結婚してることも、子供のいることも忘れるワ」とのたまいます。でも友人の子供の成長を見ていると時の経過を痛感します。

隔年毎の同期会ということで、2年後の再会を約束して別れました。

——同期生点描——

阿部克己

家族4人で熊本から車で参加。今春から教授に昇格。我家では「困ったナのおじちゃん」でとおっています。

赤見 優

南紀航空を退社。小牧の会社に転職。同期会のあとパラグライダーをしにいずこかへ行きました。

木村 保

長期韓国出張より帰国しての参加。奥サンがいづも電話でブツブツ言ってます。

北村悦造

娘さんと2人で参加。接待カラオケで鍛えたノドを聞かせてくれました。

鬼頭章治

防衛庁との連日の接待を楽しんでいる様子。東京ではいつも富士重工のツケでご馳走さます。

山田冽史

山田夫人を東京に置いての参加。社内教育担当者として活躍中。

白石美寿々(高橋)

4人の子供達を立派に育てている「肝っ玉かあさん」。カラオケを終始独占。

三浦和子(徳永)

ご主人にワザワザ枚方まで送らせる三浦夫人。長生きしてもらって下さい。

森本秀子(中嶋)

姉御肌は今も健在。子育てを終った母には見えませんでした。

竹鼻信昭

家族4人で参加。翌日、田辺の格納庫を見学させて頂いてありがとうございました。

なつかしい“イオラス”にさわる事ができて本当に感激でした。でもチョッピリさびしそうでした……。皆でピカピカに磨いてやれば良かったと後悔しています。

格納庫見学の際に段取りして下さった吉川君、その他お世話下さった諸君に感謝申し上げます。

(昭和43年卒)

木	鬼	阿		竹	竹		白	赤	北
村	頭	部	阿	鼻	鼻	山	石	見	村
	(子供)		部	森	夫人	田	(子供)	(子供)	三
			夫人	本					浦
			(子供)						夫人



正大寺会

会長もいない。会則もない。高松の飛行場で飛んで、ホテラ正大寺のお世話になった奴、この指止一まれで集まった連中の会が正大寺会。すきな時に、すきな場所に集まって、すきなこと言う、同期会のダイゴ味である。

今年は3月23・24日の両日、関西エアロスポートクラブの全面的なバックアップを得て、「モータグライダーに乗る会」が吉井川で開かれた。

遠くは千葉、福井からも昔の仲間に会いたくて馳せ参じた者、何年振りかで大空を飛ぶあの楽しさをもう一度味わいたくて胸をはずませて来る者、幸い天候にも恵まれやさしい中川(関大OB)、窪田(同大OB)、井上(関大OB)の教官指導のもとに久々に大空を楽しませてもらい“俺の旋回もまんざらでもないでー”“俺かて直線はバッチシ

やー”。教官の冷汗をよそに地上に降りて来てフクことフクこと。こわい教官の居ないことをいいことにして言った者勝ちでバク笑が続く。ピストで苦笑するのは、昔彼等の手を取り足を取って教えた結城(法政OB)、牧野(同大OB)の両教官だけ。

牛窓のペンション村での一泊は、昔の合宿に更に輪をかけた騒ぎ。ビールを飲もうが、ワインを飲もうが明日の飛行の心配はない。だってこれが楽しみで来てる奴もあるんだもん。

2日目は初日にもまして好天気。昨日に味を始めて、我も我もと搭乗希望者続出で、搭乗順は、クジ引きとなる。テルミックを掴んで5分も長く飛ぶと“割増金を取れー”“オゴラセー”といやはや騒がしいこと。でも楽しい2日間でした。

宮井(立命)	加藤(立命)	船橋(大工大)	吉川(同大)	垂水(関学)	平佐(立命)	斉藤(関学)	牧野(同大)	巨理(関学)	結城(法政)	東田(立命)	渡辺(同大)	窪田(同大)	井上(関大)	松岡(立命)
藤田(同大)														

